

上州文化

contents

	巻頭言／福島金夫	②
特集	ぐんまミュージアム散歩／桑原高良	③
	上野東歌探訪／北川和秀	⑥
	(公財)群馬県教育文化事業団 INFORMATION	⑩
	地風文化をつなぐ／木下 進	⑪
	ART NOW 「私が絵を描くこと」／矢島なるえ	⑫
	自然環境調査からみた群馬の湿原と植物 大峰沼湿原／片野光一	⑭



「微風」 島崎庸夫

巻頭言 文化の源



公益財団法人群馬県教育文化事業団理事長 福島 金 夫

天草、最南端の小さな入り江は、周りの木々や家並み、そして空の雲、目映いばかりの青が映し出される静かな海面を湛えていた。

黒光りする瓦と板壁の低い造りの建物が連なる集落。

「崎津天主堂」は、漁業を営む人達の中にひっそりとあった。

車二、三台が駐まると一杯になってしまう空き地から歩を進めると、屋根に十字架を乗せていること以外は何の誇張も変哲もない白い教会が、住む人達の家々に守られるように在った。

誰かが迎えてくれた訳ではない。小さな庭は箒のあとが残り、時季の草花が整然と咲いている。引き手のドアを開け、建屋の中に身を移すと、拭き清められた木の長椅子と長机、塵一つない板張りの床、ステンドグラスを通しての陽の光が、部屋の中を清明に、そして静けさと温かさをも醸し出している。その場所は、「静謐」そのもの。静かで、穏やかで、優しく、ささくれ立った心をシットリと修めてくれるように感じる。

初めて訪れた者の心を和ませ、落ち着かせるのは何故か。

其処は、何処に住み、何をして生きているか、何を信じ、今まで何をしていたかなど、一切を問わず、訪れた人の全てを受け入れてくれるからで

あろうか。はたまた、其処に住んでいた人、そして今、其処に住んでいる人達が創り上げてきた「許容の空間」になっているからであろうか。

それこそがその地の生活文化と思う。人が身を寄せ合い、生きる糧を得ながら安寧の場を求め、生きとし生けるものとして、生き存えてきた知恵と工夫の結果が「許す文化」になっているのではないかとも思う。

彼の地の人達も、救世主「天草四郎時貞」を慕い、天下国家を相手に、島原「原城」に籠もり鮮烈な挑戦をしたと聞くと、人の生きる様は、時の流れ、周囲の人々、情況に翻弄される、大海の中の小舟のような「必死な姿」のように思える

人の命は儚い。人一人ひとりの力は決して大きくはない。しかし、人間が青い星の上で生き続け、永い歴史を刻むことが出来たのは、集団を創り、社会を形成し、様々な能力を集めたからではないか。また、社会のため懸命に働くことに加え、僅かな余裕の中で、一緒に生きることの楽しさ喜びを感じるための所作を惜しみなく続けてきた結果ではないかとも思える。

文化とは人の心の営み。同じ時間・生活空間を共に生きていることの喜び、楽しさを感じ合う「心の合い」と思う。

ぐんまミュージアム散歩

膨大な朔太郎資料を核に
広瀬川沿いの『文学空間』

③「水と緑と詩のまち 前橋文学館」

桑原高良

前橋市中心部を流れる広瀬川。市街地にありながら水量も多く、四季折々に美しい景観を演出、河畔の遊歩道を散歩する市民も目立つ。前橋が生んだ詩人、萩原朔太郎（1886-1942）の膨大な資料を核に、前橋ゆかりの文学者の資料などを展示・収集、研究する「水と緑と詩のまち 前橋文学館」はこの川沿いにある。来年、開館20周年となる同館を訪ねた。

「広瀬川白く流れたり

時さればみな幻想は消えゆかん。（以下略）」

と、萩原朔太郎が詩にうたった広瀬川。今も、その流れは多くの市民に親しまれ、癒しを与えている。

平成五（一九九三）年九月、この河畔に「水と緑と詩のまち 前橋文学館」が誕生した。館名の前に副題として「萩原朔太郎記念」の文言が添えられ、ここがわが国の口語自由詩を確立した詩人、萩原朔太郎を中心とした文学館であることを象徴している。

同館の萩原朔太郎資料の多くは、長年にわたって朔太郎研究の拠点でもあった前橋市立図書館から文学館開館にあたり移管されたもの。その意味からも、まさにここは全国の朔太郎ファン、研究者にとって、待望の施設であり、それゆえに期待も大きい。

平成六年度から昨年度までの年度平均の入館者は三万人を超すという。

◇館名めぐるエピソード

館名決定の経緯について、エピソードがある。かつて、私が前橋市政担当記者の時代、開館を前にした市議会で、文学館の名前について多彩な意見が飛び交ったことを記憶している。当時、膨大な朔太郎資料を核とした文学館だけに、「萩原朔太郎の名が付いた文学館に」の声が早くから上がっていた。だが、開館が現実のものとなると「前橋には朔太郎以外にも文学者は数多くいる前橋文学館でよいのでは」「朔太郎だけの文学館ではないのでは」などの声が出たのだ。

結果的には、単なる「前橋文学館」ではなく、「水

と緑と詩のまち」が付いた「水と緑と詩のまち 前橋文学館」が正式館名となった。同館に関する条例によると、名称のくだりには「（注）萩原朔太郎記念という副題を添えることができる」とある。当時の担当者の苦勞がしのばれる注記だ。

◇朔太郎を中心に



思いにふけるような朔太郎像

館名の経緯は別として、同館と萩原朔太郎は密接な関係だ。館周辺の散策路沿いには市制百周年を機に制定された萩原朔太郎賞の受賞者詩碑が並び、文学館正面には広瀬川に架かる幅広の朔太郎橋も設けられ、多彩なイベントのステージにもなっている。この橋には、朔太郎と交流のあった詩人・北原白秋らの銘板も取り付けられている。橋のたもとには、思いにふけるようなポーズの朔太郎像（ブロンズ）が立ち、まさに、入館前から朔太郎を意識させられる。

◇多彩な展示空間

文学館の建物は、高層マンションに隣接する細長い四階建て。遠来の朔太郎ファンの中には、記念館のある敷島公園周辺にあるものと思い込んで訪ねる



萩原愛用ギター

人もいて、市街地にあることに驚くという。半円形の自動ドアから館内に入る。エントランスは、吹き抜けで、狭さを感じさせない。入って右側に企画展示室、その隣に映像で前橋の文化などについて学べる映像展示室が並ぶ。受付脇にある文学館ショップでは、企画展図録、書籍、記念グッズなどが手に入る。朔太郎の詩稿（複製）はプレゼントにも最適だ。

メインの展示空間は二階にある。口語自由詩の確立者として日本の文学史上に大きな足跡を残す萩原朔太郎の全体像を紹介するのが「朔太郎展示室」。



1階の企画展示室



2階には朔太郎展示室が

分かりやすい展示で、時代を追って朔太郎の足跡や業績を紹介しているほか、愛用の品々も来場者の目を引いている。

この一区画では、朔太郎の詩を映像とナレーションで楽しむこともできる。その中には、朔太郎自身による朗読も含まれている。

前橋ゆかりの文学者らの業績などを紹介する「近代文学展示室」もこの階にある。山村暮鳥、萩原恭次郎、高橋元吉、草野心平、伊藤信吉らのコーナーが並ぶ。「前橋文学館」の名にふさわしい前橋の文学人脈だ。

◆総合芸術スペース

三階には、コンサートや講演会、映画上映などが行うことのできるホールと企画展や市民展示などが行われるオープンギャラリーがある。

ホールは、萩原朔太郎賞関連の催しや文学館主催の講演会などのほか、市民による音楽会、朗読会など多彩に使われる。その意味では、文学館の存在を多くの人たちに知らせる役割も担っている。オープンギャラリーでは九月九日まで第十九回萩原朔太郎賞受賞者、福岡健二さんの展覧会が開かれている。



ホール内では多彩な催しが

◆閲覧室や研修室も

最上階の四階は、朔太郎関連資料や前橋ゆかりの文学者資料を閲覧できる部屋と講座や会議に使える研修室がある。閲覧室は学生や研究者に、研修室は会議や前橋文学館友の会関係者の自主学習の場などにも利用されている。

ホール・研修室の利用者は年平均で一万二千人に達しているという。

◆資料収集と企画

同館では、朔太郎を中心とした前橋ゆかりの文学者の資料整理・収集と展示、さらには次代を担う児童・生徒を対象にした企画など多彩に取り組んできた。学芸員の津島千絵さんは「さらに新たな資料も収集し、次世代にこの貴重な文学遺産を引き継いでいきたい。これらの資料を活用し作家や作品世界を分かりやすく紹介する展示にも取り組みたい」と語る。開館から間もなく二十年、文学館という地味な施設がどう変貌を遂げていくのか、見届けたくなった。



資料閲覧室内部

萩原朔太郎記念「水と緑と詩のまち 前橋文学館」

前橋市千代田町 3丁目 12-10

☎ 027・235・8011 Fax 027・235・8512

開館時間：午前9時30分～午後5時

（ホール、オープンギャラリー、研修室は午後9時まで）

休館日：月曜日、年末年始

常設展示観覧料：一般・大学生 100円、高校生以下無料。

企画展は別料金。

生方勇二館長に聞く

「愛される文学館に」

「水と緑と詩のまちの文化拠点、前橋文学館の館長としての抱負を。」

生方 私は、二〇二二（平成二十四）年の四月、「水と緑と詩のまち 前橋文学館」の第10代目の館長として、就任しました。

当館は、一九九三（平成五）年九月に開館、来年には二十周年を迎えます。開館以来、歴代の館長をはじめ、多くの皆様のご努力によって、現在に至っています。

ご存知のように、当館は、口語自由詩の確立者として、日本の近代詩史に比類ない足跡を残した前橋生まれの詩人・萩原朔太郎を中心に、前橋ゆかりの文学、文学者を紹介しており、これらに関係した企画を中心に事業を展開してきました。

これまでに蓄積された経験を継承し、市民の声を反映しながら、さらに新たな事業展開を模索し、多くの市民や来館者に愛される文学館となるよう微力ではありますが、努力していきたいと思っています。

―現代における文学館の役割とは。

生方 文学館の基本的な役割は、「資料の収集・整理・保存、そして、研究者等の閲覧に供することにある」とされ



生方勇二館長

ますが、当館も含め、現代の文学館の多くは、収蔵品をできるだけ広く公開、展示し、多

くの来館者を求めていると思われる。

そのために、数多くの展覧会などを企画して、その存在感、価値観を認めてもらうための、さまざまな努力をしているのが、現状だと思っています。

このような状況は、現在の時代の流れと言うか、厳しい社会環境の中では、やむをえない手段であり、必要な対応であると感じています。そのことにより、一部の愛好家だけでは無く、文化、文学を子供から高齢者まで、幅広く多くの人に知っていただき、次世代に継承して行く役割をしていると認識しています。

―今後、どのような取り組みをしていくのか。

生方 「多くの市民に愛される文学館を目指したい」というのが率直な思いです。

当館は、萩原朔太郎関連の一級資料を多数所蔵していることから、朔太郎と前橋ゆかりの文学や文学者の資料収集・整理・保存、展示・公開を基本として、さまざまな事業を展開していきたい。

文学館が市民にとって、訪れやすい施設となるために、職員の対応はもちろん、文学資料の展示内容や方法、講演会や講座、さらにはイベント等の企画を充実させ、市民文化の振興拠点としての役割が果たせるよう、他の芸術文化施設等と連携を図り、多くの皆様に愛される文学館を目指したいと考えています。

◎館長のお気に入りポイント

文学館の前に架かる朔太郎橋から眺めた四月上旬の広瀬川を覆う満開の桜は見事Ⅱ写真。特に、夜になるとライトアップされた桜と広瀬川の流れのコントラストは最高です。

また、整備をされた広瀬川河畔の遊歩道には、

萩原朔太郎
賞受賞者の
詩碑等もあり、これらを見ながらの散策も「詩のまち前橋」にふさわしいおすすめスポットです。



桑 原 高 良

（くわばら たかよし）

群馬ペンクラブ会員、群馬県文学会議会員。

1950年生まれ。74年に上毛新聞社入社。藤岡支局長、前橋支局長、編集局文化生活部長、出版局次長、文化情報誌「上州風」編集長、編集局次長などを経て太田支社長。館林シャトルおよび高崎タカタイの編集長。2011年3月退職。現在、中央カレッジグループ学園新聞編集長。著書に『二足の草鞋と本音人生―聞き書き大川栄二』『わがこころ 語る上州人 塩原友子』『初代コロムビア・ローズ物語―人生は歌とともに』（いずれも上毛新聞社刊）。

上野東歌探訪

北川和秀

一九五一年生。学習院大学大学院人文科学研究科国文学専攻博士課程修了。

同大学助手を経て、一九八五年群馬県立女子大学文学部専任講師。現在は同大学教授。専門は上代文学。主な著書に『続日本紀宣命 校本・総索引』『群馬の万葉歌』など。

今回は「安蘇」という地名を含む歌二首と、そのうち一首との関連でつる性植物をうたった歌一首を取り上げる。次の三首である。

- ◎ 上毛野安蘇の真麻群かき抱き寝れど飽かぬを何どか吾がせむ (三四〇四)
- ◎ 上毛野安蘇山葛野を広み延ひにしものをあぜか絶えせむ (三四三三)
- ◎ 上毛野久路保の嶺ろの葛葉がた愛しけ子らにいや離り来も (三四二二)

一、「安蘇の真麻群」の歌について

上毛野安蘇の真麻群かき抱き寝れど飽かぬを何どか吾がせむ (三四〇四)

可美都気努 安蘇能麻素武良 可伎武太伎 奴礼杼安加奴乎
あどかあがせむ あそのまそむら かきむだき むれどあかぬを
安杼加安我世牟

(上野国の安蘇の麻の束を抱きかかえるように) あなたを抱き締めて寝ても、それでもなお満足できない気持をいったい私はどうしたらいいのか。

「安蘇」は地名であろうが、その場所については桐生市の栃木県境付近とする説と、富岡市内とする説とがある。これについては第三節で述べる。「真麻」の「ま」は美称の接頭語。「そ」は麻で、複合語の中にだけ現れ、単独では用いられない。「上毛野安蘇の真麻群」までは「かき抱き」を導くための序。麻は細長く伸びて三メートル以上にも達するため、倒れないように密植する。その密植した麻を収穫する時、抱きかかえて根こそぎ引き抜くことから、「かき

抱き」を導くとされる。「かき抱き」を言うための序詞として麻の束をもってきたところは生活と密着している。

麻は東歌で最も多く用いられている植物である。近代まで広く栽培されていたが、化学繊維の普及に伴い、衰退した。今日、群馬県内では、「岩島麻」の産地である東吾妻町三島が唯一の栽培地として残るのみとなった。東歌では、麻の他に、柳、稲、萱、おけら、松など、生活に身近な植物が多くよまれている。一方、万葉集全体で多くよまれている植物は、萩、梅、橘、萱、松、葦、茅、柳、藤、桜などであり、東歌の様相はそれとはだいぶ相違している。

「あどか」は「何か」と同じ。「あど」は東国方言で、万葉集では東歌にのみ七例見える。内訳は、武蔵・常陸・上野各一例、国名不明四例である。東国の中でも、特に関東地方で用いられた語形であろうか。それらの中に、性愛に対する激しい心情を率直かつ大胆に表現している点で「安蘇の真麻群」の歌と通う歌があるので、それを参考のために示す。

① 高麗錦紐解き放けて寝るが上に何どせろとかもあやに愛しき

(三四六五) 未勘国

(紐を解き放って共寝をしているのに、この上一体どうしろというのか、なんともいいたいことよ)

② 子持山若鶏冠木の黄葉つまで寝もと吾は思ふ汝は何か思ふ

(三四九四) 未勘国

(子持山の若いカエデの葉が秋になって色づくまで、あなたと共寝をしたいと私は思う。あなたははどう思う?)

この二首のうち、特に①の歌は「安蘇の真麻群」の歌と全く同趣旨と言って差し支えなからう。

「安蘇の真麻群」の歌の初句・二句を序詞と見ない説もある。その場合の解釈は「上野国の安蘇の麻の束を抱きかかえて寝ても、それでも満足できない気持ちをいったい私はどうしたらいいのか」となる。麻の束を抱きかかえて寝ても満足できないのは当然であろうし、さらに①の例を参考に考えれば、この歌の作者が抱きかかえているのは麻の束ではなく、やはり生身の人間と見たい。

二、「安蘇山葛」の歌について

上毛野安蘇山葛野を広み延ひにしものをあぜか絶えせむ（三四三四）

可美都家野 安蘇夜麻都豆良 野乎比呂美 波比尔思物能乎
安是加多延世武

上野国の安蘇の山のつる草は、野が広いのを幸いに遠くまで這い延びてゆく。こんなに這い延びたものがどうして途中で絶えたりしようか（二人の仲もずっと続いてきたのだから、どうしてそれが途中で絶えたりしようか）。

「つづら」はつる草。「つる」の母音交替形「つら」と関連する語と考えられる。万葉集で「つづら」をよんだ歌は二首のみ。もう一首は次の歌である。

①駿河の海磯辺に生ふる浜つづら汝をたのみ母に違ひぬ（三三五九） 駿河
（駿河の海岸の磯辺に生えている浜のつる草のように、あなたを頼りにして母と仲違いをしてしまった）《浜のつる草は長くて絶えない意で「たのみ」にかかる》

一方は山のつづら、他方は浜のつづらをよんだものである。それぞれ山野・海岸に生えるつる性の植物一般と考えてよいであろう。どちらも、広々とした

場所で長く延びてゆくものとしてよまれている。

「あぜ」は「何故」と同じで、万葉集では東歌にのみ八例見える。内訳は相模・上野各一例で、他の六例は国名不明。国名不明が多く明確ではないが、前節で触れた「あど」の場合と合わせ考えると、「あど」も「あぜ」も関東方言の可能性が高いように思われる。「あぜか」は「何か」。「絶えせ」はサ変動詞「絶えず」（「絶ゆ」の名詞形「絶え」にサ変動詞「す」が複合したもの）の未然形。「どうして絶えようか、絶えはしない」。「あぜ」八例のうち、「安蘇山葛」の歌と同じく「あぜかゝむ」という形を取るものに次の歌がある。

②足柄の崖の小菅の菅枕あぜか巻かさむ子ろせ手枕（三三六九） 相模

（足柄の崖に生えている小菅で作った菅枕をあなたはなぜしているのか。私の手枕をしない）

③人妻とあぜか其をいはむ然らばか隣の衣を借りて着なはも

（三四七二） 未勘国

（人妻だからいけないと、どうしてそんなことを言うのか。それなら、隣の家の人の着物を借りて着ないともいうのか）

④夕さればみ山を去らぬ布雲のあぜか絶えむと言ひし子ろばも

（三五一一） 未勘国

（夕方になると山辺を去らない布雲のようにどうして仲が絶えることがあろう、と言ったあの子は、ああ）

「安蘇山葛」の歌は譬喩歌の部に収められている。この歌は表面的にはつる草のことしかうたっていないが、つる草はあくまでも比喩であって、歌の趣旨は、二人の仲が絶えないようにということであり、誓約とも、決意とも、願望ともとれる。作者の性別も決め手はなく、男女いずれの歌とも解しうる。

三、「安蘇」について

東歌には、今回問題にしている上毛野の安蘇の他に、下毛野の安蘇をよんだ歌がある。

下毛野^{しもつけのあそ}安蘇^{アソ}の河原よ石踏まず空ゆと来ぬよ汝^きが心告^なれ(三四二五) 下野
 (下毛野の安蘇の河原を、石を踏まずに宙を飛ぶような気持ちでやってきた。だからあなたも本当の気持ちを言ってみよう)

下野国には安蘇郡があるの
 で、この歌の安蘇は下野国安
 蘇郡のことと考えられる。安
 蘇郡は現在の栃木県佐野市
 で、群馬県桐生市と境を接す
 る。

上野国の安蘇も下野国の安
 蘇と関連づける考え方が多
 い。かつて安蘇の地は上野・
 下野両国にまたがるような広
 大な地域であったか、あるい
 は、上野・下野の国境線が移
 動することがあり、それに
 伴って安蘇の地が上野国に所
 属していた時期と下野国に所
 属していた時期とがあったと考
 えるのである。

これに対して、幕末の橋本直香は次のような説を提示している。

安蘇^{アソ}は今甘楽郡に宇田村^{ウタムラ}と云在、其村に小山あり、今峰山と云【稻荷を
 祭て今寺有】其山を往古より安蘇^{アソ}岡山と云ひ来れるを、今朝岡と書く
 鈴木本^{ササキ}云り、然らば宇田^{ウタ}の字も亭^{ウツ}の移りたるにて、今も甘楽郡は、亭
 を多く作り、上野麻とて、いと名高く殊に此宇田^{ウタ}の辺り多しといへば
 安蘇^{アソ}は此辺りと定むべし【但し下に安蘇^{アソ}山つづらとよめる安蘇^{アソ}は箕輪^{アサ}
 のほとりをいふといへば別か】

(橋本直香『上野歌解』)

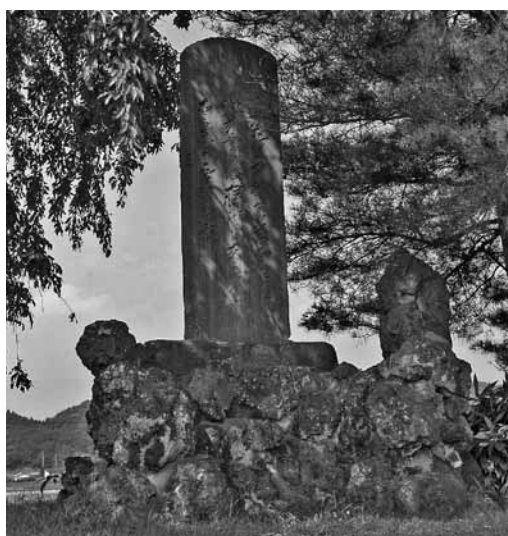


安蘇郡の地図

現在、富岡市の貫前神
 社の北方、直線距離にし
 て五〇〇メートルあまり
 のところに阿曾岡公園が
 あり、そこに昭和十一年
 (一九三六)に建てられた
 「安蘇の真麻群」の万葉歌
 碑がある。

阿曾岡公園は宇田にある
 小高い方形の地である
 が、『上野歌解』で表現し
 ている「小山」というよ
 うなものではない。貫前
 神社の北西一キロメート
 ルあまりの地(これも宇
 田)には山があり、山麓に
 は神守寺という寺もある。

『上野歌解』にいう「安蘇
 岡山」はこちらの方が相
 応しいように思える。し
 かし、明治八年(一八七五)
 の太政官の通達を受けて
 編纂された『北甘楽郡村
 誌』によれば、宇田村に
 属する小字の中に「阿曾
 岡」があり「南方神明平西方宿地北方権現堂東方一宮町、東西二町八間南北二
 町」と記されている。また、「神明平」の項には「村ノ東方ニアリ、西方北方
 阿曾岡東方南方一宮町、……」とある。一宮町は貫前神社や上州一ノ宮駅を含
 み、宇田村の東から南にかけて位置する地域であるので、この郡村誌にある「阿
 曾岡」は、現在の阿曾岡公園付近と見て問題はない。



阿曾岡公園の万葉歌碑



阿曾岡公園の地図

さて、「上毛野安蘇」はいずれの地であろうか。桐生市の方は、下野国安蘇郡が古代から存在した郡名であることは確かだが、安蘇と呼ばれる地域が上野国の方にも広がっていたとか、安蘇の地の所属が上野・下野両国間で変動していたとかいうことは推測に過ぎず、確証はない。一方、富岡市の方は、安蘇岡山という地名がいつ頃まで遡れるものか手掛かりがない。結局、現在のところ未詳とする他はない。

ただ、地名「あそ」は「あさ」に由来する可能性がある。「安蘇の真麻群」と言ったとき、「(麻の産地である)安蘇の、その麻の束」という意味の連関が推測される。荷田春満・荷田信名の『万葉集童蒙抄』に、

あそは地名也。同じ地名なれ共、まそと云ふ言を求めん為のあそ也。又あそと云ふ詞はあさと云詞なれば、是等の意をこめて読めるなるべし。

とあるのは首肯できる。

四、「久路保の嶺ろ」の歌について

「阿蘇山葛」の歌に、這い延びてゆくつる草がうたわれていたので、それとの関連で次の歌を取り上げる。

上毛野久路保の嶺ろの葛葉がた愛しけ子らにいや離り来も (三四二二)

賀美都家野 久路保乃祢呂乃 久受葉我多 可奈師家児良尔
伊夜射可里久母

上野国の久路保の山の葛の葉のつるが分岐しながら延びてゆくように、愛しいあの娘と別れて、ずいぶん遠く離れて来てしまったことだなあ。

愛しい女と別れ、その女のことをひたすらに考えながら歩いて来て、ふと我れにかえったら、随分遠くまで来てしまっていたのである。この男は、あるい

はこれから防人として九州に赴くのかもしれない。

「久路保の嶺ろ」は現在のどの山に当たるのか明らかではない。赤城山、または赤城山の最高峰黒檜山かとする説が多いが、群馬県出身の土屋文明氏は、「クロホは地名であらうが、何処か明かでない。赤城山の一峯黒檜とする説には、何の根拠もない」(『万葉集私注』)と喝破している。確かに、「久路保」と「黒檜」とを関連づける説の根拠は、両者の音が似ているという程度のものに過ぎない。

平成十七年(二〇〇五)まで赤城山麓に勢多郡黒保根村が存在したが、この村は明治二十二年(一八八九)に、宿廻・水沼・八木原・上田沢・下田沢・上神梅・下神梅・塩沢の八ヶ村が合併して成立したもので、黒保根村という新村名は、東歌の「久路保の嶺ろ」が赤城山を指すとする説に従い、この歌にちなんで命名されたものである。従って、黒保根村の村名は「久路保の嶺ろ」を考える上での参考にはならない。「ろ」は「伊香保ろ」の「ろ」と同じく接尾語。「葛葉がた」の「がた」はカヅラと同じで、つる草の総称。『続日本後紀』嘉祥二年(八四九)三月二十六日条に載せる長歌に「瓠葛 天能梯建」という一節があり、「ひさかたの あめのはしたて」と訓むことが想定されるので、「葛」は「かた」と訓め、そして「かた」には「葛」の意があったことがわかる。クズは山野に自生するまめ科の多年生つる草で、つるが伸びて広範囲を埋めるように繁茂する。葛のつるが分岐しながら別れ別れにそれぞれ延びてゆくことから、ここまでが序詞として「いや離り」にかかる。「愛しけ」は「愛し」の連体形「愛しき」の東国方言形。東歌に七例(上野一首、未勘国六首)、常陸国防人歌に一例見える。そのうちの二例を示す。

苗代の小水葱が花を衣に摺り馴るるまにまに何か愛しけ

(三五七六) 未勘国東歌

(苗代のコナギの花を衣に擦りつけて染め、着慣れるにつれて愛着が増すように、どうしてこの娘は馴れるにつれてこんなにかわいいのだろう)
筑波嶺のさ百合の花の夜床にも愛しけ妹ぞ昼も愛しけ

(四三六九) 常陸防人

(筑波山の百合の花のように、夜の床でもいいという妻は、昼もいという)

第58回 群馬県茶道会

11月4日(日)
10:00-15:00

太田市社会教育総合センター

県内茶道各流派が一堂に会し、お手前や呈茶を披露します。高校生のお手前も披露されます。

第63回 群馬県美術展覧会

11月18日(日)～27日(火)
9:00-17:00(入館は16:30まで)

群馬県立近代美術館

日本画・洋画・彫刻・工芸各部門の一般公募の入賞・入選作品及び群馬県美術会会員・準会員の作品を展示します。

第60回記念 群馬県写真展覧会

10月7日(日)～14日(日)
10:00-17:00(最終日は15:30)

群馬県庁県民ホール

自然・風景・ネイチャー・ヤング各部門の一般公募の入賞・入選作品及び委嘱作家の作品を展示します。

目で観る音楽 ーヴィジュアルディ四季ー

2012年10月5日(金)

18:30/開場 19:00/開演 全席自由

ベイシア文化ホール 大ホール

【入場料】大人 2,000 円 学生 1,000 (小学生～大学生)

- ・未就学児のご入場はご遠慮ください。
- ・託児サービスあり(要予約 1名 500円)
- ・駐車場には限りがあります。できるだけ電車、バス等の公共交通機関をご利用のうえご来場ください。当館駐車場が満車の場合は、市営パーク城東(有料)をご利用ください。

【お申し込み】発売中 窓口・インターネット・電話でお申し込みください。

【チケットの受取り・支払い】

- ・当館窓口の場合▶予約日から2週間以内にご来館ください。
- ・郵送の場合▶代金引換えにて郵送します。送料・代金引換手数料はお客様負担となります。
- ・インターネット販売の場合▶公演当日に引換可能です。銀行振込にてお支払いください。手数料はお客様負担となります。



プログラム

W.A.モーツァルト
ディヴェルティメント ヘ長調 K.138

J.S.バッハ
2本のヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1060

ヴィジュアルディ
《和声と創意への試み》ヴァイオリン協奏曲集「四季」全曲

ヴァイオリン: フェデリコ・アゴ스티ーニ

ヴァイオリン: 長岡聡季

室内オーケストラ: カメラータ ジオン

映像・演出: 田村吾郎

平成24年度伝統文化継承連携事業

(平成24年文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」)

八城人形芝居教室 参加者募集

【実施日】平成24年 9月29日(土)、10月27日(土)、11月10日(土)、24日(土)、12月8日(土)、22日(土)
平成25年 1月12日(土)、26日(土) 計8回

【実施時間】午後6時～9時 【会場】八城西住民センター(安中市松井田町八城170)

【講師】八城人形浄瑠璃城若座(代表 原田徳四郎)

【対象】安中市周辺地域を中心とする群馬県在住の18歳以上の方

- ① 伝統芸能である人形浄瑠璃に関心のある方
- ② ボランティアとして伝統芸能である人形芝居の普及、継承に意欲がある方
- ③ 上記の日程で開催される稽古に参加できる方

【募集定員】10名程度 【参加費】無料

【申込方法】ファックス・ハガキにて、氏名・住所・年齢・電話番号
「八城人形芝居教室希望」とご記入の上お申し込みください。



平成24年度伝統文化継承連携事業

(平成24年文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」)

歌舞伎衣裳展示と歌舞伎衣裳体験

【日時】平成24年11月4日(日) 10:00～15:00 【会場】横室会館(前橋市富士見町横室561-1)

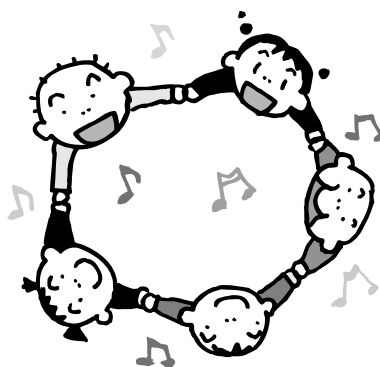
◇歌舞伎衣裳展示 平成23年度伝統文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業、平成23伝統文化継承連携事業一地域の文化遺産調査研究事業「横室歌舞伎衣裳調査」で高い価値を評価された衣裳を展示します。

◇歌舞伎衣裳体験 市川鏡十郎社中(代表 山崎玲子)による歌舞伎の化粧、髷、着付けを体験する。入場料は無料。着付けの体験は事前に申込みが必要です(定員:午前・午後各3名)。

【着付けを体験申込み方法】

往復はがき(往診裏面に住所・氏名・性別・年齢・電話番号、午前または午後の希望、返信表面に郵便番号・住所・氏名を明記)で申し込む。【申込締切】10月20日(土)(申込者が多数の場合は先着順)

民謡に魅せられて



地域文化をつなぐ



沼田市文化協会会長
木下 進

昭和四十五年と記憶していますが「東京から先生が民謡指導に来ていから来ないか本式に指導してくれるよ」と友人に誘われたので下手の横好きから早速訪ねてみました。場所は市内の楽器店の三階で、先生は三十歳前の若い男性でこれがキングレコード専属民謡歌手大塚文雄先生との出会いでした。

何を習いたいと聞かれ、斉太郎節と答えました。その時は二、三曲覚えれば宴会にも困らないだろうと気軽な気持ちで始めたのがもう四十余年になってしまった民謡の魅力は大したものです。教え方はマンツーマンで、最初先生が歌ってみせ先ず息つぎの個所を教え次に一緒に歌い悪いところを直されて何度も歌うの繰り返しですが音域の鈍い私には、なかなか簡単には覚えられず更に節は覚えてもそれは序の口でそれからが大変、民謡の味はなかなか出てきませんでした。

かくするうちに東京には文雄会という先生の会があり沼田も支部を作ろう

との機運が盛り上がり、昭和五十一年一月を期して皆に呼びかけて沼田支部が誕生しました。この時様々な資料から拾い集めて三十人程の人達に呼びかけたところ会議から祝宴に移ってから一人増え二人増え遂に四十六人が加入し勢いとは凄いものだと思つづく感じました。

だが人数が増える则会場問題が生じてきました。当時は若い人が多く稽古の時間が夜に集中するのと日程が中々決まらぬ事からとりあえず私の会社作業場の二階の大部屋を稽古場として使用する事としました。それからついに三十八年の歳月が経つてしまいました。

民謡を初めて感じた事が幾つかあります。先ず日本には素晴らしい唄が限りなくあるという事実でした。しかもその唄は名のある作者が作ったものではなく、誰が歌い始めたかわからぬまま自然に広まっていったものであるというから尚素晴らしい。正に芸術芸能の究極のものと言えます。天地自然から生まれたものとも言えましょうか。そして天地自然をよんだ唄、山の唄、海の唄、労働の唄、生活の唄、農耕の唄、漁の唄、山越えの唄や川下りの唄、

等々、中でも地名等の出てくる唄等々。正に芸術芸能ばかりでなく生活文化全般に渡っています。

北海道の北海鱈釣り唄の一部です。

上で言うなら神威の岬よ
次に美国に丸山岬

下で言うならオタモイ様よ

登り一丁に下りも一丁

都合あわせて二丁の山よ

おりとおりとに参詣致し

参詣致したその折からは

おさごまいては相手たたく

わたしの願いを叶うたならば

(離子省略)

場所は北海道半島部の日本海へ斜めに突き出した積丹半島の突端の神威岬から始まって海岸線を東進すると美国、更に東進すると丸山岬となり又小樽に近くオモタイ様がある。そしてこの後の二番では更に厚苦を通り雄冬岬を目指して行くと唄っています。恐らく漁師の間では大切な漁場がそのまま唄われている事から民謡が生活に密着している証ではないかと推察されます。

私が絵を描くこと

矢島 なるえ

絵を描く事、それは私にとってごく自然な行為で、何の違和感も無くおこなわれる。

たぶん、自然にそうなったのだろう、対象を見てそれを絵描くというのではなく、自分の内面から日々の感情から湧き上がる様に現れてくるのだ。

それは激しく溢れ出すのではなく、ふつふつと少しづつ、葉をつたう雫の様に、湧き出でる様に溢れ出す。

勿論、生活の中で出口のない儘に消えていくものもたくさんある。

何かを生み出す事はエネルギーを使い、それに向かう時間も勿論必要になってくる。

しかし同時にそれは私にとって癒やしでもあり、欲求に近い衝動でもあるのだ。私の枕元には小さなノートが置いてあり、気分がまかせて、手の動くままに、絵や言葉が書き留められている。

それは一つの絵と呼べるものではなく、幾つもの線が重なっただけの落書きで、ちいさな人やどうぶつ、形にならない曲がった人物が動き、弛まず変化しながらそこに在る、それはまるで、上手く伝えられない言葉の様に、何度も、何度も、現れる度に形をはっきり表してくる。

そう、私の絵は内面の象徴。心の代弁者。

展示された作品を見た方が、「一つ、一つまるで違う別の絵なのに全てに作者さんが居るようですね」と、言われた。

そんな風に見えるのかと少し驚いたが、形を変えて表れた私自身なのだから、また然りなのだろう。

白い紙を広げて即興で絵を描いていると、いつだって真っ先に足を留めるのは小さな子供達だ。

「何？何？何してるの？」「何ができるの？」絵を描いている後ろを行ったり来たり、興味深々の眼差しを向けて来る。

絵が出来上がってくる様子を立ちどまってずっと見ていく。

絵描かれた人物を指差して「これは誰？」「自分を描いているの？」「悲しそうな顔をしているの？」「次は何を描くの？」「子供達は敏感に絵の中の人物と向き合い、知らない友達が現れたかの様に絵の中の世界を知りたそうに訊いてくる。

その物の捉え方、敏感さにはこちらが、はっと、驚かされ答えに困ってしまう事もあるのだが、子供達と話をしながら、時に「何で？」「どうして？」と質問攻めにあいながら、私は彼らの感性に認められている事とても嬉しく思っている。

身を乗り出して、私が絵を描くのを興味深そうに見てくれる子、絵の具に興味深々で自分も絵が描きたいと絵を描いてみせてくれる子、「見たい」と親の手をひいて子供達が集まってくるので、最初は絵を描く私の後ろ

を人びとが素通りして行くだけだったが、しだいに取り囲む様に入り集りが出来てくる。見てくれる方と話をしながら作品を作り、似顔絵を描いたりするのはとても楽しい。

学校で絵画を勉強していた学生の頃に、前橋市が主催した「風の国芸術祭」という芸術と音楽のイベントに参加をさせていただき似顔絵描きを行った。

私はまだ学生で、勉強をさせてもらう気持ちだったので無料で、模索しながらの初めての体験であったが、絵をもらった人々からとても喜んでもらえ、子供達も「絵を描いてもらうのは初めてだから今日はとても楽しかった」と言っていて喜んでくれた。

絵を見せると言うとしても出来上がった作品を壁に掛けて見て回ると言うイメージが強かったが、作者と見る側が同じ場所、共に楽しむ、話をしながら、作りながらの気持ち、見ながら感じた事を共に話しながら見せていく、こんな絵の見せ方もあるのだと目から鱗の思いがした。

絵はともすると交流をしながら騒ぎながら作り上げるというのはなかなか不可能なのではないかと思っていたが、こういうスタイルもまた、可能なのだと、私の作品発表のスタイルの出発点となった。

高崎市に思い出深い美術館がある。

「山田かまち美術館」美術館と言っても少し特異な、絵と言葉で一人の少年の人生を綴ったものだ。

中学生の頃、私は自殺を考えた事がある。ずいぶん物騒な話ではあるが、友達と喧嘩をした事が発端で、学校で孤立してしまった。私と彼女の友達とはかぶっていたので、





昨日まで仲良く話をしていた人が今日は私の悪口を言う側に回っている、後ろを通る度にワザと息を止めて通って行くようになる。先生も、逃げて行く人、親身になってくれる人と様々だった。今まで楽しく過ごしていた場所が急に

気の抜けない場所に変わってしまった、人はこんなにすぐに態度を変えてしまうのかと愕然とし、本当に辛かった。とにかく、逃げなくてはいけないと思い、私は、こっそりバスタオルにくるんで包丁をもちだした。もう、死んでしまおうと、身体に押し付けて見るが皮膚をに跡がつくばかりでなかなか思いきることができない。

自分に向けた刃にえいと力を込めるには、よほどの勇気とそれに勢いが無ければそうそうにできることではない。人が一人の死ぬというのはなんて難しいことなのだろうか。

最近のニュースで幼い子供達が自殺してしまうと、彼らのおつた苦しみを、そこまで追詰めた辛さの大きさと思うといたたまれなくなる。

あとひと呼吸、ひと呼吸としているうちに父と母に見つかり揉み合いになった。包丁の刃も柄も関係無くつかんでくる両親の力強さに涙がでた。

人は生まれてくる場所を選べないと言うが、私はこの二人が私の両親として私の人生に与えられている事がたまたまなく有難かった。全てに対し無償で慈しみ愛情を注いでく

れる。何の見返りを求めることも無く、時に感謝をされずとも。それが無償であるからこそ尊いのだ。

それから、父親が平日に休みをとり、一緒に出かけようと連れて行かれた先がたま美術館だった。

父と同じ生まれ、同じ街で高校生活をおくっていた山田かまち。美術館のなかの絵や詩はいつまでも十七歳のままだ。時がとまってるが絶えず吐き出され語りかける様な激しさに満ちていた。

館内の階段を降りながら、そこに置かれた望遠鏡が目にとまった。彼はそれで夜な夜な星を見ていたのだという。世界は広い。

クラスメートが学校に行っている時間に私は出かけている。そう、びくびくしていた私だったが、たったここまで道のりで知っている人には誰ひとりも会わなかった。

私の世界はなんて狭いのだろう、そこに居る人もごくわずかだ。そんな小さな世界がまるで世界の全ての様に、何が辛い誰が嫌だと言っている自分がとても小さく思えた。

状況は直ぐには変わることがなかったが、視点は明らかに変わっていた。ひとつの現象も見方を変えるだけで受け取り方もかわってくる。

一つの世界で受け入れられないとしても、けしてそこが全てではない。

自分が変わり、思いを変えて、行動をすれば、少しずつ、周りが変わって来るのだ。

一年後、私は描き溜めた作品を持って都内の出版社に向かっていった。そこでは初めて絵を使ってもらう機会にめぐまれた。

東京の高くそびえるビル街に立ち、そこは見渡す限りの街と空。山が無いじゃないか!!

と思った。群馬に居れば何処からでもそびえる山々が見

える。学生の頃早く越えたいと思っていた山々だが、群馬に生まれ育ったということは知らず知らずに風土が深く染み付いているのだと思った。

似顔絵で子供達を描く時、元気な子、色々話をしてくれる子、内気そうにうつむいている子、みなそれぞれに個性がある、そして、絵の中ではみなこの時が主人公だ、この子たちもいかに慈しまれ愛されているのか、どの親子も肩を寄せ合いくっついて絵の出来上がるのを待っていてくれる。恋人たちは視線を交わし合い、一緒に過ごす時間を楽しんでいる。そして決まって二人が似ているのだ。

私は雰囲気を描きながらいつもほほえましくそんな光景をみている。

芸術はある人にとっては無意味無価値な金のかかる趣味程度に思われているかもしれない、しかし、お金では置き換えられないくらい時に心の支えとなりあるいは楽しくさせてくれる場合もある。

あれからちょうど倍の年月が経過し、私は倍の年になった。まだ一人前として立っているとはとてもいいがたい。

奇しくも人生で一つの愛が去り、見返りを求めずに愛する事の難しさを感じた。両親に対してはまだまだ迷惑をかけ通しであるが心に響く一説がある。

「君はどうして答えゆくのか」と。

矢島 なるえ Yajima nalue

1982年 群馬県出身 ▶ 1998年「日曜研究家」(扶桑社、日曜研究社)vol.13, 14にて目次口絵を描く。▶ 2002年風の国芸術祭(前橋市) ▶ に参加し子供達の似顔絵を描く。以降、県内外のイベントにて即興のイベントと似顔絵描きを行うようになる。▶ 2010年 イベントのライブペイント中にスカウトを受け以降ウェディングウェルカムボードの制作を行うようになる。▶ 2011年よりグループ展「どじんじん」に参加。定期的に開催。

自然環境調査からみた群馬の湿原と植物

大峰沼湿原

群馬県尾瀬保護専門委員 片野 光 一

みなかみ町の大峰山の山腹（海拔 1,000m）には、周囲約 1 km の大峰沼があり、沼の中に水面によって隔てられた大小 10 数箇所の湿原（合計約 1 ha）がある。湿原は、沼の水位変動に伴って上下動するいわゆる「浮島」となっており、最大で厚さ約 8 m の軟らかい泥炭層が堆積している。このような、全体が沼に浮かぶ湿原は珍しく、筆者はほかに福島県会津美里町の「蓋沼」しか知らない。なお、大峰沼と湿原は、1952 年に「大峰山浮島及湿原群落」として県の天然記念物に、1977 年に県の自然環境保全地域に指定されている。

大峰沼は 1980 年代中頃から沼底堆積物の浮き上がりなど景観の悪化が問題となり、筆者らは県の委託を受けて 1988 年～ 2003 年にかけて沼と湿原の調査を行った。この調査の中で、様々な説の出ていた大峰沼湿原の成因などについて、明らかになったことがある。



【大峰沼の状態】調査時の大峰沼は、ほぼ全面にジュンサイが繁茂し、いたるところにその根茎などからなる沼底堆積物が浮き上がっていた。このため、水深の測定は、海釣り用の錘を巻尺の先端につけ、ゆっくり降下させて水面下の堆積物の状態を確認しながら行うなど工夫をした。この結果、沼のほとんどの部分が沼底堆積物の浮き上がりのため水の層をはさむ二重底になっていること、沼の最も深い部分は 4 m 近くの水深があることのほか、沼底の様子などから次に述べる湿原の成因についてのヒントを得ることができた。

【湿原の成因】大峰沼湿原は、地滑りでできた凹地の湧水をもとに形成された沼沢化型の湿原で、湿原が次第に周辺に拡大していったものである。湿原ができはじめた頃（6,000 年前頃？）には現在のような沼はなく（湿原の南東側部分に小さな沼があった可能性はある）、溜め池として利用するために堰堤を築き水位を上げた際、湿原の泥炭層が間に水の層をはさむかたちで浮き上がり、現在のような大峰沼の状況が作られた。溜め池とされた時期は明らかでないが、鎌倉時代に用水路を開き沼に手を入れたという地元の談話がある。なお、沼の東側にある二つの石の祠（水神様）のうちの一つには文化 2 年（1805 年）と刻まれており、これ以前から利用されていたことがわかる。また、過去の湿原のボーリング調査の結果から、1.5 ～ 3 m 程度の水位上昇があった可能性が考えられる。普通、自然状態の小規模な沼沢化型の湿原では、池塘が埋積する以外は泥炭層中に水の層が含まれることはない。おそらく、過去の堰堤改修に伴って何度かにわたって水位が上げられたと考えられる。さらに、水深の測定や湿原の形などから、水位上昇に伴って湿原が浮き上がったことが原因となり湿原の一部に分離と移動が起こった（湿原 A から B と C が分離・移動）が、沼が浅かったことなどからわずかな移動にとどまったこともわかった。

大峰沼湿原は湿原への立入が禁止されているため、観察には双眼鏡があると便利である。

レストラン 伊万利ダイニング

前橋市文京町 2-20-22 群馬県生涯学習センター別館 TEL : 027-224-1693



群馬県・伊香保温泉



政府登録国際観光旅館
OYALONホテル加盟店
群馬県渋川市伊香保町396-20
予約直通 **Tel.0279-72-4489**

東京営業所 東京都台東区東上野6-10-7金子ハイツ503 〒110-0015
Tel. 03-3843-0083

埼玉営業所 埼玉県さいたま市中央区下落合4-23-10-101 〒338-0002
Tel. 048-856-1660

・料理茶屋 湯の花亭 上州四季の懷石



春
夏
秋
冬
味わいの旅
— 四つの食事処で料理が選べる —



想いを“かたち”にする。



株式
会社

藤田ビジネスプロモーター

前橋市問屋町 1-1-1 TEL 027-251-4455 (代) FAX 027-253-0057

<http://fujita-biz.co.jp/> E-mail fbp-npo.spirit@k5.dion.ne.jp

戸建からレジデンス
ペットとくらす
アパ|マン

大小店舗オフィス
倉庫工場
店舗|事務所

個人から法人
建物|土地

不動産有効利用
不動産活用

ローンのお申し込みは、群馬銀行へ！

住宅ローン「金利選択プラン」

選べる魅力で快適な住まいづくり

マイカーローン

自動車の購入・車検等に

教育ローン「仕送り名人」

入学金・授業料・仕送り費用に

住宅リフォームローン

ご自宅の増改築・補修・改修費用に

「ナイスサポートカード」カードローン

ホームページ・モバイルサイトからもお申込可能

フリーローン「おまとめ太郎」

ご返済をまとめて一本化

詳しくは窓口または、下記までお問い合わせください。

群馬銀行ダイレクトセンター

☎ 0120-139138 受付時間 9:00 ~ 20:00
土・日・祝休日、12/31 ~ 1/3は除きます。



あなたの夢、応援します。

群馬銀行

<http://www.gunmabank.co.jp/>



編集後記

◇ なでしこジャパンの活躍は、本当に
さわやかな感動を与えてくれる。
これも新しい日本の文化と言えるの
だろうか。

ロンドンオリンピックでのメダル獲
得は、まさに「継続は力なり」といっ
た素晴らしさを感じた。

(NH)

◇ 本誌希望の方は、送料（140 円 × 希
望回数分の切手）を添えてお申し込
み下さい。また、ご要望ご意見等も
お寄せください。

題字・群馬県知事 大澤 正 明

© 公益財団法人 群馬県教育文化事業団
(本誌からの無断転載、コピーを禁じます。)